

# 稲城野草散策の会

野草スケッチ オニノヤガラ（ラン科）



1997/06/05

稲城市矢野口

絵と文 Ta

梅雨どきに突如現れる腐生植物です。葉緑素を持たないでどうやって生活しているのでしょうか。その秘密は、エッセーをご覧ください。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

稲城野草散策の会では、年間18回ほどの観察会を行っているが、そのうち、6月は例年オニノヤガラを見に行くことにしている。場所は、ありがた山の少し奥である。

---

会報第6号 2005年6月5日発行 発行責任者 尼子 房夫

オニノヤガラは、ランの仲間であるが、洋ランの華やかさとは比べべくもない。  
東洋のランとしても異色な部類に入る。

ご覧のように、葉緑素を持っていないため、全身淡い褐色だ。  
葉緑素がないのだから、葉も進化の過程で切り落としてしまった。  
一本の棒に花だけが咲いている。

オニノヤガラが現れるのは梅雨時である。

暗い林の中で1mほどの棒がによっきり立っている姿は、異様としかいいようがない。  
まさに、鬼の射た矢が地面に真っ直ぐ突き刺さった状態。昔の人はうまい名前をつけたものだと思う。

当たり年には10本くらい見たことがあるが、最近はなぜか数が少ない。  
今年(2000年)はようやく1本見つけただけであった。

オニノヤガラは葉緑素がないのにどうやって暮らしているのか、不思議だった。  
図鑑には「腐生植物」と書いてある。

落ち葉などの腐敗物から直接栄養を取っているようなイメージを持ってしまう。  
腐敗物からエネルギーを取り出すには、「消化」のようなメカニズムが必要なのではないだろうか。わからない。

答えは、キノコ屋さん(キノコの採集や調理を趣味にしている人)から舞い込んだ。  
オニノヤガラを話題にしていたら突然、「稲城にもナラタケがあるんですね」と彼がいう。  
ナラタケは稲城にもある美味しいキノコであるが、関連がわからず、戸惑った。  
以下、彼から教わったことの受け売りである。

オニノヤガラはナラタケ菌と共生している、と本には書かれている。  
しかし、共生というより、オニノヤガラ側が一方向的に搾取している関係だ。  
オニノヤガラが発芽すると、ナラタケは菌糸を伸ばして、オニノヤガラの組織内へ入り込んでくる。  
ナラタケは有名な木材腐朽菌で、生きた木でも腐らせる力を持っている。  
恐らく、オニノヤガラから発する何かが、ナラタケを惹きつけるのであろう。  
オニノヤガラは腐るところか、ナラタケの菌糸から栄養を奪ってしまう。  
ナラタケはそれを知ってか知らずか、どんどん栄養を送り込む。  
かくて、オニノヤガラの根はジャガイモより大きな塊に生長する。

「う〜む、そうだったのか。すると、オニノヤガラはまさにヒモですな。」

「そう、ヒモです。しかし、一方のナラタケも紐なんですよ。」

「??？」

「ナラタケの菌糸は、菌糸束という直径数mmの紐になって、数10mも伸びるんです。」

そのキノコ屋さんと狭山の森林を歩いたときに、ナラタケの菌糸束を見る機会があった。  
川の中に、木の根みたいな、針金みたいなものが揺れていた。

それがナラタケの菌糸束なのだそう。

まさに紐であった。泳ぐ紐とでも言おうか。

私にとって、自然界にはまだまだわからないことが多い。

が、友人との交流によって、疑問が解ける瞬間がもたらされる。

これは無上の喜びである。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

## 〔観察記録〕 5月8日 よこやまのみち

下見と本番と2回回りました。コースの途中でお目当てのカマツカの花がきれいに咲いていました。そのほかにもサワフタギ、ヤマツツジ、ツルウメモドキ、マルバアオダモなどの花が見られ、キンラン、ギンランのほかにフデリンドウの花もありました。小田急線唐木田駅から京王線堀之内駅まで結構距離がありますが、このコースもお勧めです。唐木田駅から正山寺、上妻病院への道、長池公園、せせらぎの道、それぞれ趣きの異なる植物を見ることが出来ました。

## 〔観察記録〕 5月12日～13日 戸隠一泊観察会

昨年に続いて2回目の一泊観察会は、戸隠でした。今回の参加者は39名。一日目は「ささやきの小径」を3時間かけて歩き、白樺荘に宿泊、翌日は戸隠森林植物園を観察するというスケジュールでした。



ミズバショウ



リュウキンカ

今回は、丁度ミズバショウやリュウキンカが満開で、参加者の中からは「尾瀬



## 戸隠の名がついたトガクシショウマ →

より良い」という声もありました。

いつもの東京周辺の植物とは違ったものが出て来るので、同定に苦労する場面も多々ありましたが、イチゲの仲間の花が道筋いたるところに咲いていて飽きさせませんでした。

特に宿に入ったあと、女性陣の部屋の窓からは一面に咲いたミズバショウが見渡せ、「すばらしいから見においでよ」と誘われるほどでした。

2日目は、少し雨模様の中、戸隠森林植物園を観察しました。広い園内ですので、全部を回することは出来ませんでした。道筋に沿って歩きました。ここには植栽されたものもいろいろ有り、名札が付けられていましたが、花の咲くものには、少し時期が早かったようです。この園内でもあちこちでミズバショウの群生が見られました。

2日間、時々雨に遭いましたが、なんとか過ごせましたので、今回の観察会は堪能していただけたかなと思っています。

宿泊した白樺荘の裏の満開のミズバショウの前で撮った写真です。ミズバショウが隠れてしまっているのが残念です。



## 〔観察記録〕 5月22日 矢川源流

12日～13日の戸隠一泊観察会の後は、谷保天神社から矢川の源流へと回るコースでした。参加者は83名。今回も大勢の方の参加が有り、熱気あふれる観察会でした。

1997年と2001年に同じコースを回った記録が残っていますが、あの頃より周りの住宅も増えて来ていて、地図に載っていない道路も新しく開通していました。それでもこのコースにはきれいな水の流れが見られ、「こんなところにこんな場所があったの?」という声も聞かれました。

水に沿ってカワチシャやオオカワチシャ、ミゾホオズキなどの花、ミクリが見られました。水辺には、ヒメツルソバ、ノハカタカラクサ、ツルマンネングサの花の群生も見られました。

2箇所でムサシアブミを見ましたが、あんなところにもあるんですね。

少し時間を取った矢川緑地では、本当に熱心にいろいろ観察されていました。

## 〔行事予定〕 2005/7/14（日） 高ボッチ

| 項 目  | 説 明                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 集 合  | <p>京王線・調布駅 北口 am7時 ※会旗目標 バスで行きます。<br/>遅れないように定刻前には集合して下さい。</p>  |
| お目当て | ニッコウキスゲ                                                                                                                                             |



〔行事予定〕 2005/7/24（日） 清水谷戸

| 項 目           | 説 明                                                                                                                                |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 集 合           | 京王相模原線・稲城駅 改札口付近 am10時 ※会旗目標<br>稲城駅の改札口は一個所だけです                                                                                    |
| 交 通           | 京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で4駅目<br>小田急、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換えて3駅目<br>急行は停まりませんのでご注意ください                                            |
| 行く先<br>（解散場所） | 稲城市坂浜地区、清水谷戸（下の地図を参照ください）<br>京王相模原線・稲城駅 pm4時頃解散予定                                                                                  |
| 見所<br>その他     | 学園広場は小規模ながら手入れのよい雑木林で、林床にはいまでは貴重になってしまった植物群が見られます<br>清水谷戸には湧き水を利用した水田があり、水辺の植物が豊富です                                                |
| 地 図           |                                                 |
| コース           | 稲城駅→百村→駒沢学園・学園広場→清水谷戸→高勝寺→稲城中央公園→百村→稲城駅（解散）<br>行程5～6km、多少のアップダウンがあります（標高差100m以下）<br>コースは天候その他により変更する場合があります<br>ご用のある方は途中で抜けても構いません |

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円